

中国、吉林省の森林管理における担い手問題

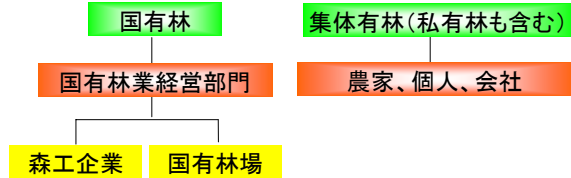


陳 鐘善(東大院農)

はじめに

日本では森林管理の担い手問題が重要な課題となっているが、中国の林業経営においてはこれまで森林管理の担い手問題という言葉をはほとんど聞くことができない。しかし、近年の林業政策の動向や農山村の人口動態から考えると、遠からずして中国においても森林管理の担い手問題に直面することが懸念される。そこで、本研究では中国で森林資源の最も集中している地域の一つである吉林省を対象に統計資料に基づいて森林管理の担い手問題について検討を行った。

中国、吉林省における森林管理の担い手



中国における森林管理の担い手としては国有林では国有林業経営部門が、集体有林(私有林も含む)では主に農家が、ほかに個人、会社が挙げられる。国有林業経営部門は森工企業と国有林場に分けられ、森工企業では木材の生産を中心に行うと同時に、多角経営(農業、商業等)、更新、造林を行い、国有林場では森林の育成(撫育、造林)を行っている。

国有林管理の担い手 —— 国有林業経営部門

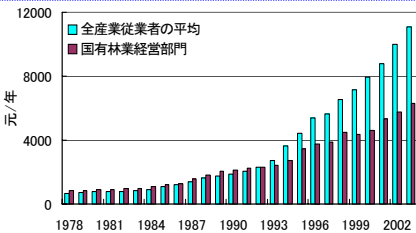


図-1 産業従事者の年平均収入(吉林省)

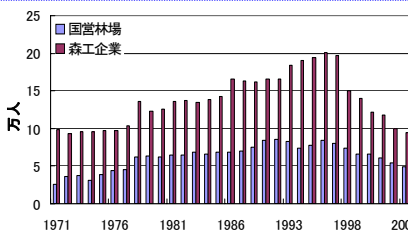


図-2 国有林業経営部門別従業者の推移(吉林省)

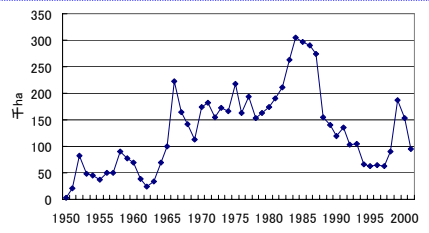


図-3 人工造林面積の推移(吉林省)

国有林の担い手を見てみると、新中国建国以来中国において林業は最も重要な産業の一つとして位置づけられ、林業従事者の賃金も他の産業より高いレベルに設定されていた。吉林省は中国においても林業が最も盛んな省の一つであるため林業従事者の収入は他の産業より高かった。しかし、1990年代中期から林業が不況に落ち込んだことで全産業従事者の平均収入を下回るようになった(図-1)。一方、2003年の国有林業経営部門別の年収を見てみると、森工企業は5,889元、国有林場は4,988元、国有苗圃は6,180元、木材検査センターは9,253元、種苗センターは12,659元、病虫害防治センターは11,064元、治砂センターは14,333元と実際に現場で森林育成を担当する森工企業と国有林場の収入が最も低かった。また、林業政策による強制的な木材生産量の減少によって吉林省の国有林業経営部門の従事者数は、1994年の37.9万人から2003年には16.8万人まで大幅に消滅された。うち木材生産を担当する森工企業は1996年の20.1万人から2003年の9.4万人まで、森林育成を担当する国有林場では8.5万人から4.9万人までに消滅された(図-2)。吉林省では1960年代中期から1980年代にかけて多くの人工林が造成されている(図-3)。つまり40年生以下の間伐、撫育などの手入れが必要な人工林が多く存在することを意味する。一方でこれから木材生産のための人工林育成を強化するという国家の政策を考慮すると、森林育成過程において現在よりは多くの人員が必要となると考えられる。特に質のよい、かつ目的に沿った人工林の育成には人為的な管理が必要であるため、従業員削減において将来の育成過程での人員の確保を十分に考慮しなければならない。また収入の低下は、従業員の森林育成に対するインセンティブの欠如に繋がるもので結果的に森林管理に悪い影響を与えかねない。

集体有林、私有林管理の担い手 —— 農家

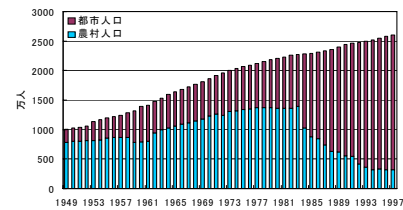


図-4 都市と農村人口の推移(吉林省)

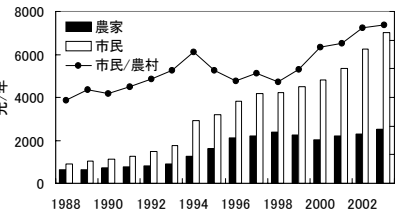


図-5 農家と市民の年平均収入(吉林省)

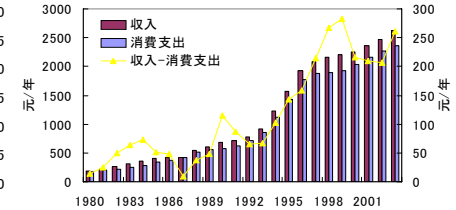


図-6 農家の収入と消費支出(吉林省)

中国では1984年から都市経済体制の改革に伴い、第二次産業、第三次産業が飛躍的な発展を遂げた。その結果、多くの人口を抱えながらも収入が低い農村地域から都市部の第二次産業、第三次産業へ多くの人々が移動していった(図-4)。その後、農村地域に残っている農家と都市市民との収入格差が拡大し、1990年代後半から農家の収入が伸び悩んだこともあり3倍近い差がついている(図-5)。中国では1990年代後半からそれまで公有制林業(国有林、集体有林)が主体となっていた林業経営において特に人工林育成における非公有制林業の参入を積極的に推進しており、その主な担い手として農家が位置づけられている。しかし、農家の得る年間収入の余剰額は増加しているものの、現在の年間250元程度の余剰では多額(植栽費など3529.5元/ha; 撫育などの管理費150元/年・年)または長期間(20-50年)の経費の投入を必要とする人工林育成には十分といえず、非公有制林業に手を出すことを敬遠することが懸念される(図-6)。つまり吉林省では現在のままでは農家が森林育成へと直接参入することには無理があると考えられるのである。

中国における森林管理の担い手問題

林業の不況、林業従事者(特に近年最も重視している森林育成部門の従事者)の減少、農家と市民との収入の拡大、農村人口の減少など、中国林業を取り巻く諸条件を考えると、吉林省において森林管理の担い手の確保には多くの課題を抱えているといえる。現在、多くの余剰従業者を抱え、その削減を進めている国有林業経営部門においては、森林育成部門の収入の低下と間伐、撫育が必要となる人工林の増加、新規人工林の拡大造成などの実態を考えると、近い将来にも安定的な森林管理担い手の確保ができるとはいきれない。また農村人口の減少と農家の実態からも、非公有制林業の主要な担い手としての農家を安定的に定着させることなどが厳しい状況に置かれていると考えられる。

森林の立地条件、森林管理者の就労条件、林業の長期性などを考えると、まず将来の必要性を考慮した技術者の確保対策を立てること、つぎに新しい担い手として森林地域に住む農家の脱農村化の進みを歯止めしなければならない。盗伐などが国有林区で大きな社会問題となることを考えると、新しい森林管理の担い手としての農家の重要性、必要性を常に念頭に入れる必要がある。

また吉林省のような森林資源が多く、農家の収入が低い地域では、農家の収入増による森林管理への参入の期待より、むしろ森林管理への参入により収入増ができるシステムの構築が望ましいと思われる。